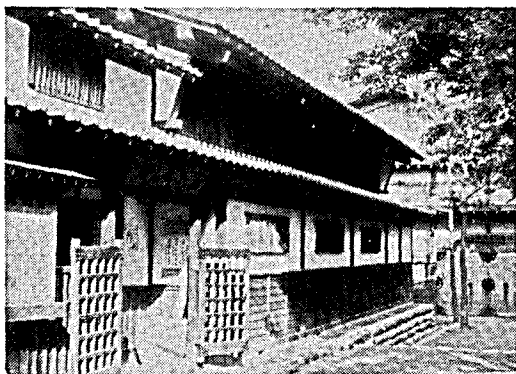


No. 42

1978.
7. 25

岐阜の博物館

〒483 羽島郡川島町
エーザイ工園
編集兼発行 内藤記念くすり博物館内
岐阜県博物館協会
TEL (058689) 3111
内線 540
振替 名古屋 70106



館・園紹介 No. 37

左：郷土芸能館入口
右：同上館内展示

日吉ハイランド郷土芸能館・美濃歌舞伎博物館

▽ 509-62

瑞浪市日吉町 8004 の 25

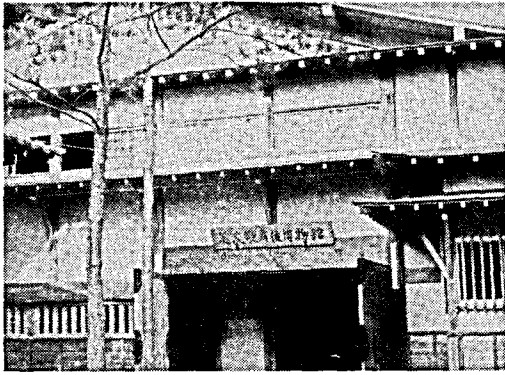
TEL <057204> 126, 127

日吉ハイランド(ゴルフ場)の社長小栗克介氏が、わざわざ出向いてくださり、この地に移築復元された農村歌舞伎の芝居小屋『相生座』を、すみずみまでいねいに案内して下さった。「これは、全くの男の道楽ですわぐ……」とニコニコされてはいるが、どっこいどうして、この人ならではの人並み外れた哲学と思想に裏づけされた価値高き事業である……と敬服するばかりでした。

とどんなにささやかなひとかけらの物であっても、人間の生活に欠くことのできない貴重なものだったにちがいないからこそ、残っているはずである。人間生活に不必要なものだったら、ひとかけらですら残るはずがない。だからこそ、古いものは、大切にしないではいけなし、そ

うすることが、今に生きている人間の責任である……この小栗氏の信念ともいえるバックボーンこそ、まさに博物館人の座右の銘とすべきことではないでしょうか。

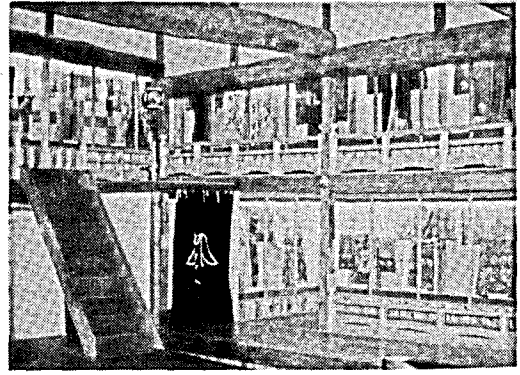
郷土芸能館内に展示されている数々の豪華な歌舞伎衣装、建物そのものの自体がかけがえのない文化遺産である美濃歌舞伎博物館として今に生きている相生座、この館内の棧敷席の背面にピシッリ展示されている衣装の数々……これらを収集し、保存し、そして無料で公開するなどといった仕事は、ただ単なる失われゆく郷土芸能への愛着やノスタルジア……芝居が好きだから……などだけからできるはずがありません。小栗氏の人生哲学ともいえる「古いものを大切に」ことの、ひとつの具体的な実践行動で



美濃歌舞伎博物館の正面

あるにちがいない。花道を、楽屋裏を、あちこち案内をしてくださる間には、多くのことを語ってはくださらなかったが、人間小栗克介氏こそは、想像を絶する「物」の価値……それも有形・無形を問わないもの……を理解されている博物館人そのものであると感じました。直感的な印象で失礼とは思っても、小栗氏の心には、人間の精神文化活動への深いご理解があるだけでなく、氏自身が計り知れないほどの実践体験をお持ちであるにちがいないと思えるのでした。

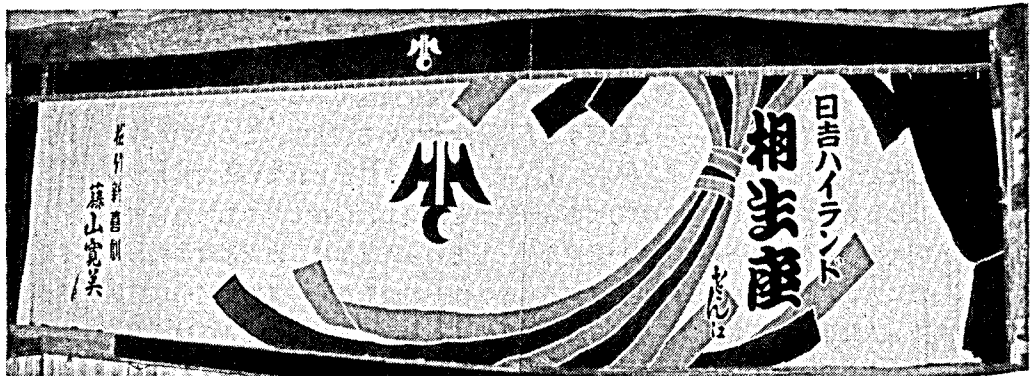
この美濃歌舞伎博物館は、展示室であるとともに、建物自体が博物館資料であり、さらにまわり舞台をもった「相生座」として、地元諸団体から使用を頼まれば貸してもおられる。郷土芸能の催し物ももたれるし、地域の老人会等の利用にも役立てておられる。まさしく、建物と、展示資料と、そして芝居小屋としての機能とが一体となって、現代から未来に生き続ける



館内棧敷席うしろの衣装展示

ひとつの新しい博物館の姿を見る思いでした。そのうえ、この8月12日には、日吉ランドの従業員一同が出演して、歌舞伎を披露され、これが恒例の興業となっているとのこと、芝居小屋があり衣装があって、芝居道具をもち、そのうえ役者まで揃っているのは、全国広しといえども、日吉ランド美濃歌舞伎博物館ここ一ヶ所だけではないだろうか。そして、これほどすばらしい博物館展示は、他に例がないのではないだろうか。どんなにくわしく口頭で解説してみても、費用をかけた立体的なジオラマでそれほど説明してみても、とても立ち打ちできるはずがありません。

江戸の末期から明治にかけて、庶民のエネルギーは地芝居文化を盛り上げました。古くさい……の一言で片付けしないで、ことに若い人々に8月12日の相生座興行のご鑑賞をお奨めしたい。
(写真・文 小野木)



松竹新喜劇 藤山寛美氏より贈られたみごとな祝儀幕

昭和52年度 収 支 決 算 書

岐阜県博物館協会

	予 算	決 算	増 減
収 入	1,123,776	1,083,421	
支 出	1,123,776	868,660	
残 高		214,761	

《収入の部》

項 目	予 算	決 算	増 減
前期繰越金	222,776	222,776	0
会 費	329,000	223,500	-105,500
補助金	540,000	540,000	0
要覧売上金	28,000	45,360	+17,360
雑収入	2,000	49,880	+47,880
利息	2,000	1,905	-95
合 計	1,123,776	1,083,421	-40,355

《支出の部》

項 目	予 算	決 算	増 減
事務費	195,000	109,600	-85,400
通信連絡費	100,000	78,720	-21,280
会議費	30,000	0	-30,000
印刷費	20,000	20,740	+740
需要費	45,000	10,140	-34,860
機関誌費	349,000	277,250	-71,750
印刷費	180,000	153,700	-26,300
送料	120,000	104,250	-15,750
取材費	40,000	19,300	-20,700
会議費	9,000	0	-9,000
東海博總會費	20,000	15,000	-5,000
開催費	10,000	10,000	0
会費	10,000	5,000	-5,000
日博協研究集會費	100,000	67,000	-33,000
日博協總會費	20,000	22,000	+2,000
セミナー費	160,000	0	-160,000
セミナー費	60,000	0	-60,000
講習会費	100,000	0	-100,000
總會費	48,000	53,900	+10,900
通信費	16,000	17,500	+1,500
会場費	12,000	0	-12,000
印刷費	5,000	3,100	-1,900
茶菓料	10,000	33,300	+23,300
表彰費	115,000	250,530	+135,530
役員会費	48,000	45,650	-2,350
振替手数料	5,000	4,070	-930
慶弔交際費	15,000	23,360	+8,360
予備費	53,776	0	-53,776
合 計	1,123,776	868,660	-255,116

昭和53年度 収支予算書

岐阜県博物館協会

《収入の部》

項 目	予 算	備 考
会 費	3 3 0, 0 0 0	公立 3,000×27 私立 2,500×46 個人 1,500×52 入会金 2,000×3 賛助会費 50,000
補 助 金	5 4 0, 0 0 0	岐阜県 440,000 岐阜市 100,000
要 覧 頒 布	2 8, 0 0 0	
雑 収 入	2, 0 0 0	
利 息	2, 0 0 0	
前 期 くり 越	2 1 4, 7 6 1	
合 計	1, 1 1 6, 7 6 1	

《支出の部》

項 目	予 算	備 考
事 務 費	3 4 0, 0 0 0	
通信連絡費	1 8 0, 0 0 0	
会議費	2 0, 0 0 0	
印刷費	4 0, 0 0 0	
需要費	1 0 0, 0 0 0	
セミナー費	1 0 0, 0 0 0	会場費・講師謝礼・旅費等
学芸技術員講習会費	1 0 0, 0 0 0	
機関紙費	3 5 0, 0 0 0	年4回発行
印刷費	1 8 0, 0 0 0	
送料	8 0, 0 0 0	
取材費	7 0, 0 0 0	
会議費	2 0, 0 0 0	
東海博總會費	2 0, 0 0 0	
会費	1 0, 0 0 0	
旅費	1 0, 0 0 0	
日博協大会旅費	2 0, 0 0 0	
總會費	3 7, 0 0 0	
通信費	1 6, 0 0 0	
会場費	5, 0 0 0	
印刷費	6, 0 0 0	
茶菓料	1 0, 0 0 0	
表彰費	2 0, 0 0 0	
役員会費	7 0, 0 0 0	
振替手数料	5, 0 0 0	
慶弔交際費	2 5, 0 0 0	
予備費	3 9, 7 6 1	
合 計	1, 1 1 6, 7 6 1	

昭和53～54年度 役員一覽

(6月4日の総会で下記のように決まりました。)

名誉会長 上松 陽助 (岐阜県知事)
 会 長 蒔田 浩 (岐阜市長)
 副会長 平田 吉郎 (高山市長)
 郷 浩 (岐阜城)
 松尾 克美 (岐阜県博物館長)
 理事長 長倉 三朗 (飛騨民俗村)
 副理事長 吉田 幸平 (濃飛甲冑研究所)
 理 事 青木 允夫 (くすり博物館)
 浅見 昭子 (浅見化石館)
 石田 豪澄
 上村 修
 大江 傘 (中部山岳考古館)
 大橋 宣嘉 (飛騨大鍾乳洞)
 小栗 克介 (美濃歌舞伎博物館)
 尾内 広行 (高原郷土館)
 小野木三郎 (岐阜県博物館)
 金子 貞二 (明方村博物館)
 樹神 弘 (岩村町郷土館)
 白木 孝二 (菊化石館)
 谷口 勉 (高山屋台会館)
 田中 利夫 (岐阜市児童科学館)
 土田吉左門 (飛騨集古館)
 中川 連
 名和 秀雄 (名和昆虫博物館)
 古川 庄作 (岐阜県陶磁器陳列館)
 古橋 龍夫 (大垣城郷土博物館)
 松本 五三 (郡上八幡民芸美術館)
 松本 秀夫
 武藤 隆一 (奥美濃郷土館)
 山本 秀雄 (白川郷合掌村)
 若宮 成光 (若宮修古館)
 渡辺 俊典 (瑞浪化石博物館)
 幹 事 石川 良宣
 藤田 松太郎
 松田 充
 願 問 広瀬 鎮 (J-M-C 学芸部長)

事務局

事務局長 青木 允夫
 事務局員 古田 恵子
 担当理事 上村 修
 松本 秀夫

専門委員会

広報委員会

担当理事 小野木三郎
 委員 柴田 佳章
 " 田中 淑紀
 " 奥村 好次

学芸委員会

担当理事 吉田 幸平
 委員 大久保 甚一
 " 加藤 務
 " 亀山 久雄
 " 中川 連

学芸技術員講習会実行委員会

担当理事 郷 浩
 委員 古川 庄作
 " 名和 秀雄
 " 松本 秀夫
 " 上村 修
 " 小野木三郎

協会表彰規程一部改正

本誌№16、12ページにあります岐阜県博物館協会表彰規程第3条「表彰は表彰状を授与して行なう。この場合において、副賞を授与することができる。」→「表彰は表彰状と楯を授与して行なう。」に改正されました。

なお、これを機に、これまでの表彰者を、記録として次頁に収録しました。

岐阜県博物館協会 表彰規定に基づく受賞者一覧

年月日	氏名	所属	業績	場所
43. 11. 8	宮崎 惇	長森中学校	岐阜県博物館要覧自費150部発刊	金華山展望台
47. 9. 10	金子貞二	明方村立博物館	村内の民俗資料の収集整理、村立博物館開設など	明方村公民館 (東海博協総会)
"	小林 幹	明方中学校長 高山郷土館	郷土館々長として民俗民芸等の指導的役割など	"
"	白木孝二	菊化石館	協会機関紙発行への経済的援助及び協会運営参画など	"
"	小池和輔	明方村	47年度東海博協総会開催に当り会場誘致・企画・財政援助など	"
49. 5. 13	郷 浩	岐阜城	協会設立以来理事長・副会長として協会の運営発展に指導的役割など	三田洞弘法
"	長倉三朗	飛驒の里	協会設立以来発展に尽力また民俗資料収集・飛驒の里開設の貢献等	"
"	吉田幸平	濃飛甲冑研究所	協会設立以来巾広い学識経験行動力で協会発展に尽力など	"
"	広瀬 鎮	日本モンキーセンター	豊富な経験・学識で協会発展のため顧問として尽力など	"
50. 5. 25	樹神 弘	岩村町教委	郷土館設立担当者として資料収集整理、特色ある館開設の努力など	県市町村会館
"	山腰 悟	ひだ自然館	私財を投じ自然・民俗館を開設、自然保護等に尽力、学界にも貢献等	"
"	倉野新蔵	金華山リス村	リス村の飼育責任者として餌付け飼育に独創的な研究努力など	"
"	古川庄作	岐阜県 陶磁器陳列館	資料の収集・保存あるいは美濃窯跡発掘調査等の精力的な活躍など	"
"	田端計朶	高山市	獅子頭250頭収集の偉業と棚橋賞基金の寄贈など	"
51. 5. 9	柴田佳章	瀬尻小学校	トンボの分布・生態の研究調査とトンボ天国保存への尽力など	県医師会館
"	小野木三郎	岐阜県博物館	博物館地図・要覧・セミナー集等の出版その他の学芸活動など	"
"	大橋嘉宜	ひだ大鍾乳洞	協会への多大の援助と指導	"
51. 7. 15	野田守之	K.Kレストホール	東海博協総会実施に当り多大の配慮と支援など	レストホール
"	末松卓男	K.Kスポーツパルコ	同上	"

52. 5. 15	伊藤 祐教	伊藤祐教 コレクション	協会草創期の活躍、協会発展への 尽力など	岐阜市 岩船荘
"	小栗 克介	美濃歌舞伎博物 館・郷土芸能館	歌舞伎資料の収集保存、芝居小屋 復元等の偉業その他協会活動への 支援など	"
"	土田吉左衛門	飛驒 集古館	学術的な業績および協会事業発展 のための多大な貢献など	"
"	青木 允夫	内藤記念 くすり博物館	巾広い学識・経験で協会運営に寄 与、各種事業に多大の貢献	"
"	山本 信三	高山 民俗村	日博協大会に当り運営等に貢献	"
52. 7. 2	日 博 協	東 京 都	棚橋賞レリーズ記念贈呈	くすり博物館
53. 6. 3	故 浅見 蕉	浅見化石会館	生前多数の化石を内外より収集保 管、これを公開展示して教育に多 大の貢献	県市町村会館

≡ 県内 ニュース ≡

獅子会館に常設実演場完成

高山市桜町の「獅子会館」では、飛驒の伝統民俗芸能の獅子舞を実演しては……の声に応えて、鉄骨づくり二階建て延べ330㎡の実演場を併設、一階は駐車場で二階が実演場。4月28日に完成式、高山市錦山神社獅子舞や宮川村菅沼の金蔵獅子などの実演を行っている。

名和昆虫博物館 「世界の昆虫と切手展」開催

4月23日から8月31日までのロング特別展として実施、昆虫をデザインした世界各国の切手と、実物の昆虫を標本で紹介するもので、日本のオオムラサキをはじめ、インドネシアのメガネアゲハ、ヨーロッパのアポロウスバシロチョウなど、200組を超える切手と昆虫の取り合わせが見もの。その他、マレーシア産の帝王ゼミ、ニューギニア産のオオナナフシ、南米産のヘルクレスオオカブトムシなど、世界の大型昆虫も展示されている。

岐阜県歴史資料館 「水害と治水資料展」開催

木曾三川が流れる濃飛平野で、祖先たちが治水事業のためにどのように苦勞してきたのか、堤方役所関係の文書、絵図類、明治以降の三川分流工事諸資料、伊勢湾台風、9.12水害の記録などで上記資料展を開催、9月30日まで。文化12年(1815)の水害絵図・天保12年(1831)の森部輪中悪水落江絵図などが公開されている。

※館報 創刊号も発刊※

岐阜県歴史資料館報 創刊号が発行されました。建設経過年表、収集文書の紹介、館内案内、それに研究発表三題(西美濃輪中地帯の地主、小作関係・市蔵新道など)などが収録されている。

土岐市 民俗資料館を建設

今秋着工予定で計画、同市泉町久尻の市文化会館内の図書館移転新築にともない、空き室を活用し、新たに鉄筋鉄骨平屋300㎡の新館を建設、研究室、収蔵庫、管理室、展示室等を設ける計画。陶磁器を中心とした焼き物の街の歴史の殿堂としての歴史民俗資料館を目指すとのこと。国と県の補助を受け総工費約6,000万円。

